

「東京こころといのちのゲートキーパー」養成研修の実施状況について

1 ゲートキーパーとは

うつ・自殺の基本的知識を有し、相談業務等を通じて相手の心身不調のサインに気づき、必要に応じて相談機関等につなぎ、協働して取り組む役割を担う。

官民を問わず、住民に対する相談・調整を業務の一部とする者等が、ゲートキーパーになりうる者として想定される。具体的には、保健師、医師、社会福祉施設職員、福祉事務所職員、ケアマネジャー、消費者相談員、職場の管理監督者、教師、民生児童委員、警察官、消防職員など

2 平成19年度の養成人数

開催日	対象者	参加者数
平成19年12月20日	都福祉保健局本庁職員	57名(30名) (30名は1~4まで参加)
平成20年1月21日	杉並区職員	108名
平成20年2月14日	都保健所職員等	55名(41名) (41名は1~4まで参加)
		220名(71名)

3 養成のプログラム

科 目
1 講義 「自殺の危険について正しく理解するために」 うつの症状と自分で気づく方法 「死にたい」と思う気持と危険性を把握できるために 話の聴き方
2 自死遺族からのメッセージ 遺族の思いや本人の置かれていた状況 支援者に望むこと
3 NPO活動からみた自殺対策の重要性 自死遺族への支援について 社会全体での取組について
4 演習 実践から学ぶ・グループワーク

杉並区研修は1~3で実施